

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 笑生苑		
所在地	防府市大字佐野152-1		
電話番号	0835-27-6500	事業所番号	3570600829
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		

訪問調査日	平成 21 年 8 月 7 日	評価確定日	平成 21 年 10 月 28 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人 非常勤 2 人 (常勤換算 12.9 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 24,000 円	敷金	無	円
保証金	有 184,200 円	償却の有無	有	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
その他の費用	光熱水費：1日250円 日用品費：1日300円 衛生管理費：1日300円			

### (4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者数	18 名	男性 4 名	女性 14 名	
	要介護 1	2	要介護 4	2
	要介護 2	3	要介護 5	2
	要介護 3	9	要支援 2	0
年齢	平均 85.75 歳	最低 76 歳	最高 96 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 ひらた呼吸器内科 相川医院 防府消化器センター 歯科 きしもと歯科医院
-------------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

地域密着型サービスの理念を見直して、地域との交流について具体的に検討し、留守家庭の子供のグループとの交流会の企画をするなど積極的な交流を図っておられます。運営推進会議はメンバーの参加も多く、地域の情報をもったり、苑便りの地域回覧要望が出るなど活発な意見交換が行われホームの運営に重要な役割を担っています。

### (特徴的な取組等)

利用者の能力や健康状態、興味に合わせQOLの向上をめざして、音楽療法、学習療法、園芸療法を定期的に取り入れ効果を上げておられます。このために職員2名が学習療法の研修に参加して学んでおられます。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

避難時の訓練に地域の協力を得る事については、今後、運営推進会議にかけて、体制づくりをする予定です。

### (今回の自己評価の取組状況)

全員に配布して可能なところを記入し、ユニットリーダーと総括管理者で協議し、職員からも意見を聞いて記入されています。評価は人事ではなく自分自身の問題であり、書くことによって利用者全員のケアを見つめ直すことが出来たと、反省の機会になっています。

### (運営推進会議の取組状況)

3ヶ月毎に開催し、メンバーは民生委員、自治会長、地域代表、市高齢障害課長、地域包括支援センター職員、家族(2人)で、参加者も多く、状況報告、行事、外部評価報告、地域情報などで意見交換をし、活発な意見が出てホームの運営に重要な役割を担っています。

### (家族との連携状況)

3ヶ月毎に「笑生苑便り」を発行し情報提供をしておられます。必要時の電話による報告の他、月1回以上の面会を義務づけ面会時に暮らしぶりを報告したり家族の意向を聞いておられます。又、家族交流会を年1回開催されています。

### (地域との連携状況)

自治会に加入し、市内一斉清掃活動に職員が参加したり、小学校の運動会、お大師様、菊祭り、文化祭へ作品の出展など地域の行事に参加しておられます。又、法人の祭りやホームのイベントとして留守家庭の子供達との交流会の企画等へ地域住民の参加を呼びかけるなど地域交流に努力しておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>開設時の理念の一つに「地域とのかかわりを大切に」とあり、地域密着型サービスとしての理念の検討も加えて従来の理念を貫いている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎年、理念の5つの項目について、各自が目標を掲げ月毎の反省、課題を業務記録とし、日々の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、市内一斉清掃活動に職員が参加したり、菊祭り、文化祭へ作品の出展など地域の行事に参加している。又、法人の祭りやホームのイベント(留守家庭の子供達との交流会)企画等に参加を呼びかけ地域交流に努力している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義を理解し、評価結果は職員全員で改善に取り組んでいる。自己評価は全員に配布しユニットで話し合った後、ユニットリーダーと総括管理者で協議して記入している。評価は職員自身や利用者のケアを見つめ直し、反省の機会となっている。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>3ヶ月毎に開催している。メンバーは民生委員、自治会長、地域代表、市高齢福祉課長、地域包括支援センター職員、家族(2人)で外部評価の結果や行事、状況報告をし、地域の情報、苑便りの地域回覧の要望等が出されるなど活発な意見交換をしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険の手続きで毎月高齢福祉課を訪れ、職員やサービス内容について相談など連携している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	3ヶ月毎に“笑生苑だより”を発行し情報提供をしている。必要時の電話による報告の他、月1回以上の面会を義務づけ、面会時に暮らしぶりを報告したり家族の意向を聞いている。又、年1回家族交流会を開催している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	入居時に説明し、面会時や家族交流会などで意見を聞き運営に反映している。苦情相談窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情相談マニュアルに手続きを定めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日勤職員は3～4人体制で、利用者の変化や要望、行事等は勤務調整をして増員している。夜勤職員は2ユニットを1名で対応しており夜勤帯の緊急時の対応と精神的ゆとりを考慮し法人として9月から当直の配置が予定されている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間の移動はあるが、最小限にしている。離職の場合、新規採用者は20日間重複勤務とし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は新任研修、中堅研修、実務者研修を計画的に受講させている。外部研修受講者は復命伝達で共有し、毎月1回法人内研修が計画的に実施されている。又、新人には各ユニットのリーダーが働きながらのトレーニングを勧めている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会の中ブロックに加入し、年2～3回の研修会を受講したり、懇親会に参加している。他のグループホームの取り組みを参考にして“看取り”をする事が出来た事はスタッフ間の自信になっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前に家族と本人が施設見学をして職員や利用者とお茶を飲んだり、職員が自宅や施設を訪問したり、入居までゆっくり検討してもらうなど馴染みの関係づくりを家族等と相談しながら工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は共生・共助の意識を常に持ち、利用者の得意とする漢字の読み、野菜作り、調理の仕方など教えられることが多く支え合う関係を築いており維持継続出来る支援に努力している。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>家族からの情報や日常の話、態度、表情などから把握し、各ユニットの台所に置いているカンファレンスノートに記入して、ミーティングやカンファレンスで共有し、本人の表情観察などから本人本位の検討をしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族や利用者の要望を聞き、月1回実施するカンファレンスで検討しそれぞれの意見を反映した計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>基本的には1年で見直しをすることになっているが、月1回のカンファレンスで全員の見直しをし、変化があれば家族や訪問看護師と話し合い新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携を取っており、通院介助や買い物、外食、図書館など特別外出支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人と家族で話し合い希望に添って医療機関を定め、受診方法や情報の伝え方を決めて適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「重度化した場合における対応の指針」を定めており、契約時に家族から同意書を貰っている。重度化した場合は主治医、家族、職員、関係者と協議をしながら方針の共有をしている。これまでに3例の看取りをしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	法人の研修会に参加しており、尊厳の気持ちを持って言葉かけや対応に配慮し、記録類はロッカーに保管している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	午前中に関わりの時間として掃除、茶碗洗い、米とぎ、洗濯物干し等利用者の能力に併せて参加している。午後は入浴、工作等で過ごすが、利用者一人ひとりのペースを大切にしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食とも副食は配食となっており、それぞれの力量により、盛りつけや片付けを職員と一緒に、同じものを食べながら楽しそうに会話をしている。特に、ホームにおいて一緒につくるおやつや食事は利用者の楽しみになっていることから、月2回は定期的にホームで調理することを検討している。	・ホームでの調理の検討
24 (64)	<b>入浴を楽しむことのできる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は隔日で14時～17時となっているが希望があれば毎日でも入れる。入浴を嫌がる場合は下清拭を実施している。入浴剤を入れたり季節の変わり風呂で楽しんでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の能力や希望に合わせ、清掃や草取り、畑仕事、洗濯物たたみ、配膳、後片づけ等の場面づくりをしたり、学習療法や園芸療法、音楽療法で意欲を引き出したり、楽しみにつながる支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ユニット毎に外出の月間計画を立て、散歩は毎日、買い物、外出、四季毎の花見など外出を増やす機会を多くするよう努力している。介護度の高い利用者もボランティアの協力等で外出をもっと増やすことを検討している。	・外出の工夫
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人としてマニュアルは作成されており、月1回の法人の身体拘束委員会に参加し、職員に伝達、共有して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	1人ひとりのリスクを把握して、日中は位置確認を行っており施錠はしていない。玄関にセンサーはつけているが、外出に気づかなかつた場合は、関連施設や近くの店などから連絡があったこともある。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人の月1回の事故防止委員会に参加し、ヒヤリはつとや事故報告書を整備し、原因、対応策を検討し共有している。又、利用者のリスクを把握し、1人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルや連絡網を作成している。救急手当・応急手当の講習は職員全員が受講し、毎月第4火曜日には法人の講習会に参加する。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回法人での避難訓練(夜間想定を含む)を利用者と共に実施している。又、3ヶ月毎に法人の行う防災委員会に参加し職員に報告し共有している。災害時の地域住民の協力体制はまだ出来ない。	・地域の協力体制づくりの検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は個人別にファイルし、職員は理解している。変化があれば必要な情報を医師にフィードバックしている。薬の分包と服薬は2段階で確認している。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	朝、夕食後声かけをして力量にあった口腔ケアを実施している。義歯、歯ブラシ、コップは週2回定期的に消毒・清掃している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	併設の管理栄養士による献立であり、食事のカロリーやバランスは確保されている。食事や水分摂取量は必要な利用者のみ記載しているが、一人ひとりの状態に応じ刻みやお粥等にしたり夜間の水分補給にも配慮している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し手洗い、うがいの励行、トイレや手すりの消毒は週2回行っている。月1回法人の感染症対策委員会に出席し職員に研修として伝達している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ウッドデッキを中にして各ユニットがあり、プランターの野菜や花が眺められ、明るく開放的になっている。廊下には作品や外出時の写真が貼られ、和室は洗濯物をたたんだり昼寝など居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や愛着のある写真、飾り物などが持ち込まれ、季節毎の衣類の入れ替えと2週間毎の掛け布団カバーの交換を家族と相談しながら行っている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 笑生苑
所在地	防府市大字佐野152-1
電話番号	0835-27-6500
開設年月日	平成16年8月1日

## 【実施ユニットの概要】 (7月1日現在)

ユニットの名称	右田の家			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 2名	女性 7名	
	要介護1	0	要介護4	0
	要介護2	1	要介護5	1
	要介護3	7	要支援2	
年齢構成	平均 86.3歳	最低 76歳	最高 96歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	ユニットスタッフで話し合いの場を持ち、意見を出しあい、まとめた後にリーダーと管理者で確認した
評価確定日	平成 年 月 日

## 【サービスの特徴】

- \* 日中の生活に音楽活動(療育的活動方)・学習療法・園芸活動を月間計画に定期的に取り入れQOLをめざす
  - \* 園芸活動で野菜の収穫があれば、クッキングで食事の一品にし、また、おやつを作っている
  - \* 音楽活動はホームないから離れ、活動に広いスペースでピアノの有る共有スペースで音楽に興味や関心のある8名の方が継続的に参加、レク材や手作りの楽器を用いている
  - \* 小学校が隣接しているので、毎年4年生を対象に交流会を行っている
  - \* 年末クリスマス会などに近くの保育園の園児さんが歌や劇の披露に来苑してくれる
- 他にも季節や地域の行事を通して地域交流が計れる様になりました。一昨年までは、どのように交流のきっかけを作れば良いか思案していました。運営推進会議で地域の方に提案したこともひとつの糸口となりました。今年はグループホームが秋の法人恒例”あいおい苑”祭りの担当なので、この行事を通して、地域に笑生苑をアピールし今以上に交流を深めていきたいと考えます

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		洗濯物を干す、畳む、に加えて月に2回程度の調理を定期的に行いたい。
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		もっと意識付けしていきたい
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		生活残存の能力の維持が長期間できる支援の工夫
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		一泊近距離旅行(家族同行)で行う
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		8月に予定の隣接する小学校の留守課程学級の児童との”夏休みカレーパーティー”を企画している
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		10月の”あいおい祭”を通してグループホーム内に来苑してもらいグループホームを少しでも知ってもらい、足を向け易い環境にしていきたい
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		校区の中学生の社会体験などのボランティア参加などとして欲しいので、中学校へ呼び掛けたい
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		今年度もワーキングをしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の結果で指摘されたことについては職員全員で改善に努力している。1年間のサービスの反省と課題になる	職員の日々の業務の反省に繋がりたい (業務反省日誌をつけることの継続)
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	自治会行事の予定の情報入手や参加の意向を伝え、参加し易い環境設定をしてもらっている	話し合い相手ボランティアさん・外出支援のボランティアさんなど近隣地域の方のボランティアさんをお願いしたい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険の更新手続きに月に1度、市役所高齢障害課に行く。その機会に職員のこと入居者へのサービスの提供内容の事など話している	法人の恒例行事等にも市職員の来苑をお願いしていきたい
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	今年度、お一人の方(現在まで地域権利擁護利用者)の成年後見手続きに同行した。全入居者の家族の状態を日頃から把握し、必要性があった時は情報提供や支援を行っている	成年後見、地域権利擁護の必要性のある方は現在、手続きを行った方以外はいませんが、今後必要がある方が居たら支援していく
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修は昨年行った。虐待は無いと把握している。	職員の対応中の言葉掛けには注意していきたい、尊厳にある関わりを見失はないよう接遇面を気をつけたい
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に契約の説明をさせてもらっている。十分な説明と質疑にお答え出来るよう、期間にゆとりを持って行い、理解、納得の上、契約書に身元保証人さんの署名・捺印を頂、説明者の記名を行っている	現状の対応で行っていききたい。契約以外のサービスについても十分な説明をおこない、より利用し易いホームにしていききたい
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃のケアの際に不満を意図的に意見できるようにコミュニケーションしているので、できる事から徐々に行っている	パーソンドケアを職員全員が行う想いを共有できるよう話し合っていく
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	"笑生苑だより"を3ヶ月に1度発行している中に情報提供しています。金銭管理は契約上行いません。1年に1度夏に家族交流会をグループホームで行っています。その場を入居者の状況報告の場としています	以前は個人カンファレンスで1年に2回にしていたが、家族交流会に変えた。全体の交流も2回にしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求があれば応じるが今までは特に無い。第三者評価の結果は玄関に掲示している。		契約書の条項にはうたっている
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約書の中に記載し、入居契約時に説明している。また、個人的に苦情等を話した時は事業所内で会議を行い解決への議事録を報告者、入居者家族の目の届く場所に掲示する事になっている		家族会で意見をもらえる様、議題を提供する
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度のリーダー会議・全体会議・カンファレンスを行う中で意識統一してケア行っている		職員一人ひとりのモチベーションを高める研修を行い、ケアの向上に繋げたい
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日勤帯の職員が退社後の夕食時間帯から入床までが手薄であったが、パート職員を増員することで対応にゆとりが出来てきた。		今年度の計画で夜勤帯の緊急時の対応と夜勤者の精神的ゆとりを考慮し宿直を配置することを検討している。実施の予定は9月頃を予定している。
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の退職の希望が出た時は新採用者と数週間かぶる勤務を終えて退職をしている		育児休暇後の復帰職員の勤務が日勤のみの希望で、夜勤等の交代勤務から外れる事のシフト体制を工夫したい
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の法人内での研修の実施、外部研修にも積極的に参加している。		グループホーム内でも職員の介護技術の向上、勉強会を定期的に行っていききたい。
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員の特技をケアに活かし、音楽活動や園芸活動を行っている。それぞれの方の好きな活動に参加している。		職員の意識統一が出来ればと思う
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会の中部ブロックに加入している。グループホーム連絡会主催の研修会、懇親会に参加している。		研修会場に提供し、研修会の開催を予定中

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		今年も職員同士の研修1泊旅行の計画をしたい
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		入居者の思いがいつも表現できる関わりを職員は自然の環境で行って欲しい
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		職員一人ひとりの稼働率を上げて欲しい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入居者とのコミュニケーションを入居前に十分に計りたい。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		ホームでの日常生活を見学していただき、入居者の方の表情をどのように感じていただかが、入居を希望するか否かだと思う。私たちのケアの評価は入居者の笑顔です
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		誰でも我が家で長年住み慣れた場所に住み続けたい想いは同じだという事を介護職も共感し、支援できる心を持って欲しい
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		家族の意向で入居申し込みをSれている方は本人の意思確認が出来ていない人も要る。入居まで、ゆっくり検討してもらって決めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		出来ないことの支援、出来ることの喜びをもって、自立支援の維持、継続をしたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	遠距離外出や施設行事、外来受診の同行を通して、日頃うすい、家族交流を取り戻す時間としたいので、協力をお願いしている。		入居者と家族の外出、外食支援や外来受診の同行なども協力していきたい
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	一週間に一度、夫や娘と入居者とでホームの自室で昼食をしている。また、遠くから訪苑する家族は利用者の部屋に宿泊して一緒に時間を共有している。		全員の家族の望むそれぞれの支援の仕方 で協力できる方法を家族会で提案する
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近隣の方や知人がホームに訪ねてくる方も居ます。入居者の居室で過ごされています。		出来ていない方については、家族会などで提案し、環境設定などの協力をしていきたい
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	散歩や外出など全員が一緒に行事を行う時は車椅子の方の車を入居者が運転すること、食事の準備の手伝いが出来る入居者は手伝ってもらうことで協働作業しいえいる		入居者同士の間トラブルが時々あります。仲介の仕方をもっと職員で工夫したい
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他施設に入居した後、ホームを訪ねたり、家族に電話で状況を聞いたりしている。ホームで亡くなった方についても、暫くの間は電話や自宅に訪問しても構わない方は訪ねています。		"施設だより"や施設行事などの案内を暫くの間送付したい
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1.一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活行動の観察から一人ひとりの表現(表情)や興味の示し方で、把握し、それぞれの活動に参加してもらっている。参加状況を見てまた、検討し本人の意に添わない時は無理強いしない		皆さんの選択肢を広げられるように、職員のサービス提供の出来ることを増やしていきたい
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の家族との面談時にアセスメントを充分に取り、また、訪苑時の何気ない家族との会話の中で本人の生活のポロセスを意図的に聞きだせるようにコミュニケーションを図っている		ケアプラン作成時に家族の希望、意向を確認しているが、家族交流会を機会に聞く
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の変化を見極めた時、職員同士が状況を話し合い、近況を振り返り、援助(医療機関・ケアのサービス)の必要性を緊急なのか様子観察なのか家族に報告が必要なのかなど決めている		気になることはユニットで共有意識が持てるように職員全員に申し送りで伝達している。これからも今以上に徹底していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族とのカンファレンスにより本人の生活歴等を理解し、どのようなサービスを提供すれば良いか話し合い計画を作成している。	本人からのニーズを聞きだせるように日常の関わりの中でより良いコミュニケーションを図る工夫とゆとりの時間を取れるようにしたい
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人の病の急変については主治医、生活(ADL)・周辺症状の変化やが生じた場合、家族や訪問看護師等と話し合い対応の検討を状況に適した介護計画書のモニタリングしている	定期的なモニタリングと一人ひとりの、緊急時について家族と話しています。新たに今回の家族会で確認する
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌や個人のケース記録に個人の様子の変化を記入し、全職員がその状況を把握することで、その後の介護計画の見直しに活かしている。	定期的なモニタリングを行う
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	訪問看護と医療連携をしている。 通院の家族対応が困難な場合、車両配送と通院介助での病院受診の対応を行っている。	家族との外出に外出支援が必要であれば職員対応も可
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	教育機関の実習生の受け入れや近隣小学校の児童訪問。	今後は各ボランティアの受け入れを増やしていきたい。運営推進会議の充実
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	「認知症高齢者」を理解してもらう為に、近隣の地区を対象とし 講話を開催した。見学等も随時受け付けている。	「認知症高齢者への理解」へと地域での啓発事業を行ったり、県の認知症高齢者の講習を受けキャラバン隊に登録をしている
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	居宅支援事業所からの相談を受けることが多く、自宅復帰の方が居るときに包括支援センターに相談を行うが近年、重度化対応を受けることで自宅復帰や他施設への移行はなくなり相談の回数は減った	防府市認知症介護者の家族会に登録し活動に参加したり、講演や当施設への見学をしてもらったりと交流をしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		運営推進会議での交流が必要になった時に相談体制が出来れば良いと思う。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		職員と主治医の日頃の連絡・相談・報告がこれからも行われるよう関係性を大切にしたい
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		家族が同行で受診の際は近況報告書を持参しているが職員の同行も可能な限り行いたい
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		緊急時は医療連携している訪問看護以外の母体施設の看護職も対応を行って欲しい
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		医療機関との連携を密にとり強化していきたい。
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		看取りの事例から、定期的な家族会で終末期ケアに対して家族の希望、想いを知り、それに添ったケアを行っている。昨年12月1人看取った。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		看取りの事例から、より一層チームケアを強化し、これからの備えている。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		入所前の面談、家族との話し合いによる情報交換を行い、生活歴を尊重した支援を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個々に合わせた声掛けや関わりを持つよう心掛けている。尊厳の気持ちを常に持ち、接するように心掛けている。</p>	<p>声掛け、言葉掛けに注意し、言葉の中にも尊厳を大切にしたい。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者への投げ掛けで、想いや希望を見出し、その事を実現できる様援助し、自己決定や納得に繋がれる様に援助している。</p>	<p>本人に理解・納得してもらうことで自己決定出来る様に促していく。</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>一緒に家事や洗濯物整理、掃除などの日常生活の中で行えることを、入居者のペースや思いに尊重しながら行うようにしている。</p>	<p>いろいろな場面での『できる力』の発見に努めたい。</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者が参加しやすいよう関わりの時間を決めている。入居者が自己決定でき、想いのまま過ごせてもらえる様に支援している。</p>	<p>日中、やりたいことをしてもらい、ゆったりと過ごしてもらっている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者のレベルに合わせ訪問理容や移動理容、理髪店での散髪支援を行っている。</p>	<p>家族の意見も参考にしている。</p>
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>副菜の盛り付けや配膳を手伝ってもらい、職員も同じ食事を一緒に食し、片付けも入居者と一緒に行っている。</p>	<p>副菜の好き嫌いのある方は、各自で購入し食してもらっています。</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>苑で提供する食事以外にも嗜好品を補食として食している。又、お酒については、本人の体調を考慮し出来る限り晩酌として楽しんでもらっている。</p>	<p>移動販売のカタログを毎週見て貰い、本人の希望する嗜好品を捕食として提供している。</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>入居者の排泄パターンを把握や排泄前の行動の変化等を観察し、時間を決めてトイレ誘導し支援している。</p>	<p>トイレの意識付けをする為、決まったトイレに誘導する。全職員が徹底・統一継続していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日を決め入浴していただいている。(午後14時~17時)本人の拒否や体調に合わせて変更もあるが希望のある方については、なるべく尊重し時間帯を合わせている。		入浴剤を入れたり、季節的な変わり風呂を行ったり、出来ないことへの手助けをし入浴を楽しんでもらえる様に支援している。
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	午前中のバイタル測定、体調に合わせた服薬、本人の状況や変化を見極め、臨機応変に安静休息への声掛けを行っている。		入眠時の室温や湿度に気をつけている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々のレベルに合った役割分担を継続して行っている。学習療法ではコミュニケーションを取りながら、本人の意欲や楽しみを引き出す様支援している。		園芸が好きな方には草取りや畑仕事、家事の好きな方は台所周り、洗濯物の手伝いを積極的に取り組んでもらっている。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人より購入希望する物品があれば、お預かりしている、おこずかいから希望に合わせた物品を購入している。買物は一緒に行い、金銭管理は職員が行っている。		買物回数をもっと増やしたり、自身で財布を持ち金銭の受渡等をする事を支援したい。
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	月間計画表をユニット職員で作成し、季節に合った行事を行っている。天候の良い日は苑外散歩を行っている。		外出の回数をもっと増やして行きたい。
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族と入居者と一緒に海峡館(下関)へ出掛けた。		外出支援や遠方への外出等、家族に声掛けし、ともに出掛ける機会を増やしていきたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族から入居者への電話は取り次いでいる。年賀状作成を行った。		年賀状、暑中見舞いなど、入居者と家族とのやり取りの機会が増えるようにしていきたい。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者に関係する人と把握出来ていれば、本人の居室や共有スペースで過ごして頂いている。遠距離の家族については、宿泊することも可能です。		入居者・家族が居心地のよい環境作り。
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊がいつでも出来るよう、寝具一式を苑に準備している。		『泊まりたい』思っただけのような環境作り

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	定期的な家族会と祭りの開催。		苑の祭りや外出・外食に声掛けし参加依頼をしている。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人で月1回身体拘束委員会に参加。現状報告、取り組み、内容、事例検討を話し合い、委員の職員が各職員に復命している。抑制や拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。		GH内で拘束を解除するための話し合いの充実、職員の意識の温度差、言葉の拘束(職員の中で徹底されてない内容もある)等が課題である。
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	朝8時30分頃から夕方18時までは開錠している。日勤帯の職員が退社した時間帯頃より施錠している。		基本玄関施錠時間は左記のとおりだが、現在は夜間帯21時から6時までの施錠となっている。(戸締りとしては左記のとおり)
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間での声掛けに所在の確認を行っている。		危険であると判断するような状況であればすぐに対応に行く。
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬品等、危険な物は手の届かない所や、施錠できる場所で保管している。		危険な物品を全て隠すのではなく、必要最低限の管理に止めている。
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人で月1回事故防止委員会に参加。毎月の事故報告を行い、原因、対応策を話し合い、結果を部署に報告し、職員の意識統一を計っている。		GH内にAEDを設置を検討したい。
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員全員、救急・応急手当の講習を受けている。施設内でも定期的に講習を行っている。		法人看護師等による勉強会を検討。
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	軽微事故報告書・事故報告書を作成し、回覧する事で、内容の確認とミーティングで再発防止に努めている。		場合によっては家族同席のカンファレンスも検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地域の方からの協力(消防団等)体制検討。日頃から災害等の話し合いを利用者とする。
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		定期的な家族会をとおして家族との信頼関係をより一層築きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		主治医との連携。
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		薬剤師に薬の専門的知識や効果、副作用についての研修、勉強会を検討。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		排便のコントロールは主として服薬による事が多い。
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		口腔内清浄の困難利用者についてのケアにどのような方法が効果的か検討、取り組み。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		食欲の落ちる夏場はスポーツ飲料や口当たり良いものなど提供している。
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		感染対策マニュアル作成し、感染者発生時には蔓延しないように再度マニュアルチェック、報告し指示を仰ぐ様体制づくりしている。
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		食事、おやつ前の手指アルコール消毒励行している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前に季節の花、野菜プランターなどを配置し、親しみやすい空間づくりをしている。(近隣の人との関わりも開放的に心がけている。)	玄関周りの毎日の掃除。
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	中庭ウッドデッキに季節の野菜や花等をプランター等で栽培し、季節感や成長の様子を伺えるよう工夫している。又、毎月季節に応じたアート活動を行い季節感を感じてもらっている。	外出、行事等で行った写真も貼るなどして、どのような場所へ行ったか見て思い出し、楽しんでいただいている。
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳の間(掘りごたつ)、ベランダ、隣ユニットへ行き来出来る中庭、独りで過ごしたり、入居者同士で自由に過ごせる場所の確保している。	畳の間が思うように活用できてない。
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた食器、タンス、電化製品、雑貨等を居室に持ち込み家庭的な居心地を感じてもらおうよう努力している。	どうしても簡易的な物が多くなっている、何か身の周りで本人の愛着品や昔の写真等あれば取り入れたい。
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室換気に努め、エアコンの調節はタイマー利用、冬場は乾燥防止のため居室に濡れタオル干し加湿励行。また24時間空気清浄機使用している。空気、温度、湿度、衛生的な環境づくりに配慮している。	共有スペース床暖房の作動。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手すりの設置、浴槽内すのこ、洗身椅子、便座、利用者に使いか勝手よく自立した生活が送れる様心掛けている。	GH内のヴィジョンである”安心、安全、安楽”を念頭に職員行っている。
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品(ホウキ、ちりとり、園芸用品、趣味の品等)を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。その他に自室に表札、飾りし認識を持ってもらっている。	利用者ひとり一人の力、自立への思いの共有。
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑、花壇、ベランダ、中庭、プランターの活用、野菜の収穫、水やり等の園芸活動を日常的に行い、季節感や張り合いを持ち楽しんでもらえるよう努めている。	ハード面をもっと家庭的でぬくもりある空間づくりを行いたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 笑生苑
所在地	防府市大字佐野152-1
電話番号	0835-27-6500
開設年月日	平成16年8月1日

## 【サービスの特徴】

- \* 日中の生活に音楽活動(療育的活動方)・学習療法・園芸活動を月間計画に定期的に取り入れQOLをめざす
- \* 園芸活動で野菜の収穫があれば、クッキングで食事の一品にし、また、おやつを作っている
- \* 音楽活動はホームないから離れ、活動に広いスペースでピアノの有る共有スペースで音楽に興味や関心のある8名の方が継続的に行っています

## 【実施ユニットの概要】 (7月1日現在)

ユニットの名称	佐野の家			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 2名	女性 7名	
	要介護1	2	要介護4	2
	要介護2	2	要介護5	1
	要介護3	2	要支援2	
年齢構成	平均 85.2歳	最低 77歳	最高 95歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	ユニットスタッフで話し合いの場を持ち、意見を出しあい、まとめた後にリーダーと管理者で確認した
評価確定日	平成 年 月 日

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		洗濯物を干す、畳む、に加えて月に2回程度の調理を定期的に行いたい。
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		もっと意識付けしていきたい
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		生活残存の能力の維持が長期間できる支援の工夫
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		一泊近距離旅行(家族同行)で行う
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		8月に予定の隣接する小学校の留守課程学級の児童との”夏休みカレーパーティー”を企画している
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		10月の”あいおい祭”を通してグループホーム内に来苑してもらいグループホームを少しでも知ってもらい、足を向け易い環境にしていきたい
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		校区の中学生の社会体験などのボランティア参加などとして欲しいので、中学校へ呼び掛けたい
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		今年度もワーキングをしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の結果で指摘されたことについては職員全員で改善に努力している。1年間のサービスの反省と課題になる	職員の日々の業務の反省に繋がりたい (業務反省日誌をつけることの継続)
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	自治会行事の予定の情報入手や参加の意向を伝え、参加し易い環境設定をしてもらっている	話し合い相手ボランティアさん・外出支援のボランティアさんなど近隣地域の方のボランティアさんをお願いしたい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険の更新手続きに月に1度、市役所高齢障害課に行く。その機会に職員のこと入居者へのサービスの提供内容の事など話している	法人の恒例行事等にも市職員の来苑をお願いしていきたい
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	今年度、お一人の方(現在まで地域権利擁護利用者)の成年後見手続きに同行した。全入居者の家族の状態を日頃から把握し、必要性があった時は情報提供や支援を行っている	成年後見、地域権利擁護の必要性のある方は現在、手続きを行った方以外はいませんが、今後必要がある方が居たら支援していく
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修は昨年行った。虐待は無いと把握している。	職員の対応中の言葉掛けには注意していきたい、尊厳にある関わりを見失はないよう接遇面を気をつけたい
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に契約の説明をさせてもらっている。十分な説明と質疑にお答え出来るよう、期間にゆとりを持って行い、理解、納得の上、契約書に身元保証人さんの署名・捺印を頂、説明者の記名を行っている	現状の対応で行っていききたい。契約以外のサービスについても十分な説明をおこない、より利用し易いホームにしていききたい
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃のケアの際に不満を意図的に意見できるようにコミュニケーションしているので、できる事から徐々に行っている	パーソンドケアを職員全員が行う想いを共有できるよう話し合っていく
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	"笑生苑だより"を3ヶ月に1度発行している中に情報提供しています。金銭管理は契約上行いません。1年に1度夏に家族交流会をグループホームで行っています。その場を入居者の状況報告の場としています	以前は個人カンファレンスで1年に2回にしていたが、家族交流会に変えた。全体の交流も2回にしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求があれば応じるが今までは特に無い。第三者評価の結果は玄関に掲示している。		契約書の条項にはうたっている
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約書の中に記載し、入居契約時に説明している。また、個人的に苦情等を話した時は事業所内で会議を行い解決への議事録を報告者、入居者家族の目の届く場所に掲示する事になっている		家族会で意見をもらえる様、議題を提供する
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度のリーダー会議・全体会議・カンファレンスを行う中で意識統一してケア行っている		職員一人ひとりのモチベーションを高める研修を行い、ケアの向上に繋げたい
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日勤帯の職員が退社後の夕食時間帯から入床までが手薄であったが、パート職員を増員することで対応にゆとりが出来てきた。		今年度の計画で夜勤帯の緊急時の対応と夜勤者の精神的ゆとりを考慮し宿直を配置することを検討している。実施の予定は9月頃を予定している。
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の退職の希望が出た時は新採用者と数週間かぶる勤務を終えて退職をしている		育児休暇後の復帰職員の勤務が日勤のみの希望で、夜勤等の交代勤務から外れる事のシフト体制を工夫したい
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の法人内での研修の実施、外部研修にも積極的に参加している。		グループホーム内でも職員の介護技術の向上、勉強会を定期的に行っていききたい。
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員の特技をケアに活かし、音楽活動や園芸活動を行っている。それぞれの方の好きな活動に参加している。		職員の意識統一が出来ればと思う
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会の中部ブロックに加入している。グループホーム連絡会主催の研修会、懇親会に参加している。		研修会場に提供し、研修会の開催を予定中

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		今年も職員同士の研修1泊旅行の計画をしたい
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		入居者の思いがいつも表現できる関わりを職員は自然の環境で行って欲しい
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		職員一人ひとりの稼働率を上げて欲しい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入居者とのコミュニケーションを入居前に十分に計りたい。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		ホームでの日常生活を見学していただき、入居者の方の表情をどのように感じていただかが、入居を希望するか否かだと思う。私たちのケアの評価は入居者の笑顔です
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		誰でも我が家で長年住み慣れた場所に住み続けたい想いは同じだという事を介護職も共感し、支援できる心を持って欲しい
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		家族の意向で入居申し込みをSれている方は本人の意思確認が出来ていない人も要る。入居まで、ゆっくり検討してもらって決めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		出来ないことの支援、出来ることの喜びをもって、自立支援の維持、継続をしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		入居者と家族の外出、外食支援や外来受診の同行なども協力していきたい
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		全員の家族の望むそれぞれの支援の仕方 で協力できる方法を家族会で提案する
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		出来ていない方については、家族会などで提案し、環境設定などの協力をしていきたい
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		入居者同士の間トラブルが時々あります。 仲介の仕方をもっと職員で工夫したい
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		"施設だより"や施設行事などの案内を暫くの間送付したい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		皆さんの選択肢を広げられるように、職員のサービス提供の出来ることを増やしていきたい
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		ケアプラン作成時に家族の希望、意向を確認しているが、家族交流会を機会に聞く
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		気になることはユニットで共有意識が持てるように職員全員に申し送りで伝達している。 これからも今以上に徹底していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族とのカンファレンスにより本人の生活歴等を理解し、どのようなサービスを提供すれば良いか話し合い計画を作成している。	本人からのニーズを聞きだせるように日常の関わりの中でより良いコミュニケーションを図る工夫とゆとりの時間を取れるようにしたい
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人の病の急変については主治医、生活(ADL)・周辺症状の変化やが生じた場合、家族や訪問看護師等と話し合い対応の検討を状況に適した介護計画書のモニタリングしている	定期的なモニタリングと一人ひとりの、緊急時について家族と話しています。新たに今回の家族会で確認する
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌や個人のケース記録に個人の様子の変化を記入し、全職員がその状況を把握することで、その後の介護計画の見直しに活かしている。	定期的なモニタリングを行う
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	訪問看護と医療連携をしている。 通院の家族対応が困難な場合、車両配送と通院介助での病院受診の対応を行っている。	家族との外出に外出支援が必要であれば職員対応も可
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	教育機関の実習生の受け入れや近隣小学校の児童訪問。	今後は各ボランティアの受け入れを増やしていきたい。運営推進会議の充実
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	「認知症高齢者」を理解してもらう為に、近隣の地区を対象とし 講話を開催した。見学等も随時受け付けている。	「認知症高齢者への理解」へと地域での啓発事業を行ったり、県の認知症高齢者の講習を受けキャラバン隊に登録をしている
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	居宅支援事業所からの相談を受けることが多く、自宅復帰の方が居るときに包括支援センターに相談を行うが近年、重度化対応を受けることで自宅復帰や他施設への移行はなくなり相談の回数は減った	防府市認知症介護者の家族会に登録し活動に参加したり、講演や当施設への見学をしてもらったりと交流をしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		運営推進会議での交流が必要になった時に相談体制が出来れば良いと思う。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		職員と主治医の日頃の連絡・相談・報告がこれからも行われるよう関係性を大切にしたい
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		家族が同行で受診の際は近況報告書を持参しているが職員の同行も可能な限り行いたい
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		緊急時は医療連携している訪問看護以外の母体施設の看護職も対応を行って欲しい
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		医療機関との連携を密にとり強化していきたい。
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		定期的な家族会で終末期ケアに対して家族の希望、想いを知り、それに添ったケアを行って行き、終末期のケアが発生した場合、家族、医療、職員が話し合い取り組みたい。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		右田ユニットの事例から、より一層チームケアを強化し、これからの備えている。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		入所前の面談、家族との話し合いによる情報交換を行い、生活歴を尊重した支援を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個々に合わせた声掛けや関わりを持つよう心掛けている。尊厳の気持ちを常に持ち、接するように心掛けている。</p>	<p>声掛け、言葉掛けに注意し、言葉の中にも尊厳を大切にしたい。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者への投げ掛けで、想いや希望を見出し、その事を実現できる様援助し、自己決定や納得に繋がれる様に援助している。</p>	<p>本人に理解・納得してもらうことで自己決定出来る様に促していく。</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>一緒に家事や洗濯物整理、掃除などの日常生活の中で行えることを、入居者のペースや思いに尊重しながら行うようにしている。</p>	<p>いろいろな場面での『できる力』の発見に努めたい。</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者が参加しやすいよう関わりの時間を決めている。入居者が自己決定でき、想いのまま過ごせてもらえる様に支援している。</p>	<p>日中、やりたいことをしてもらい、ゆったりと過ごしてもらっている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者のレベルに合わせ訪問理容や移動理容、理髪店での支援を行っている。</p>	<p>家族の意見も参考にしている。</p>
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員も同じ食事を一緒に食し、片付けも入居者と一緒に行っている。</p>	<p>補食を各自で購入し食してもらっています。</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>苑で提供する食事以外にも嗜好品を補食として食している。</p>	<p>移動販売のカタログを毎週見て貰い、本人の希望する嗜好品を捕食として提供している。</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>入居者の排泄パターンを把握や排泄前の行動の変化等を観察し、トイレ誘導し支援している。</p>	<p>本人の行動・サインを見逃さないよう、入居者の行動の観察を行う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		入浴剤を入れたり、季節的な変わり風呂を行ったり、出来ないことへの手助けをし入浴を楽しんでもらえる様に支援している。
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		入眠時の室温や湿度に気をつけている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		園芸が好きな方には草取りや畑仕事、家事の好きな方は台所周り、洗濯物の手伝いを積極的に取り組んでもらっている。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		買物回数をもっと増やしたり、自身で財布を持ち金銭の受渡等をする事を支援したい。
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		外出の回数をもっと増やして行きたい。
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		外出支援(遠距離)への家族に声掛けし、一緒に出掛ける機会を増やしていきたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		年賀状、暑中見舞いなど、入居者と家族とのやり取りの機会が増えるようにしていきたい。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		入居者・家族が居心地のよい環境作り。
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		『泊まりたい』思っただけのような環境作り

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	定期的な家族会と祭りの開催。		苑の祭りや外出・外食に声掛けし参加依頼をしている。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人で月1回身体拘束委員会に参加。現状報告、取り組み、内容、事例検討を話し合い、委員の職員が各職員に復命している。抑制や拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。		GH内で拘束を解除するための話し合いの充実、職員の意識の温度差、言葉の拘束(職員の中で徹底されてない内容もある)等が課題である。
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	朝8時30分頃から夕方18時までは開錠している。日勤帯の職員が退社した時間帯頃より施錠している。		基本玄関施錠時間は左記のとおりだが、現在は夜間帯21時から6時までの施錠となっている。(戸締りとしては左記のとおり)
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間での声掛けに所在の確認を行っている。		危険であると判断するような状況であればすぐに対応に行く。
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬品はロッカー、洗剤類は視野にはいらない場所、刃物類は施錠出来る収納場所等、危険な物は手の届かない所や、施錠できる場所で保管している。		危険な物品を全て施錠する場所に収納するのではなく、危険の無いような場所で、必要最低限の管理に止めている。
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人で月1回事故防止委員会に参加。毎月の事故報告を行い、原因、対応策を話し合い、結果を部署に報告し、職員の意識統一を計っている。		GH内にAEDの設置を検討したい。
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員全員、救急・応急手当の講習を受けている。施設内でも定期的に講習を行っている。		法人看護師等による勉強会を検討。
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	軽微事故報告書・事故報告書を作成し、回覧する事で、意識確認とミーティングで再発防止に努めている。		検討課題により、家族同席のカンファレンスも行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地域の方からの協力(消防団等)体制検討。日頃から災害等の話し合いを利用者とする。
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		定期的な家族会をとおして家族との信頼関係をより一層築きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		主治医と訪問看護ステーションとの連携。
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		薬剤師に薬の専門的知識や効果、副作用についての研修、勉強会を検討。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		排便のコントロールは主として服薬による事が多い。
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		口腔内清浄の困難利用者についてのケアにどのような方法が効果的か検討、取り組み。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		食欲の落ちる夏場はスポーツ飲料や口当たり良いものなど提供している。
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		感染対策マニュアル作成し、感染者発生時には蔓延しないように再度マニュアルチェック、報告し指示を仰ぐ様体制づくりしている。
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		食事、おやつ前の手指アルコール消毒励行している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関は日中は開錠しており、入居者の安全確認のため開閉時のサインをするチャイムを付けている。又、インターホンでの利用が出来る。玄関前に季節の花、野菜プランターなどを配置している	玄関の内外にベンチを置き、天候の良い時などはベンチに座って寛いで居る。 玄関周りの毎日の掃除。
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	中庭ウッドデッキに季節の野菜や花等をプランター等で栽培し、季節感や成長の様子を伺えるよう工夫している。又、毎月季節に応じたアート活動を行い季節感を感じてもらっている。	外出、行事等で行った写真を貼るなどして、見て思い出し、他者とのコミュニケーションで楽しんでいる。
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳の間(掘りごたつ)、ベランダ、隣ユニットへ行き来出来る中庭、独りで過ごしたり、入居者同士で自由に過ごせる場所の確保している。	畳の間に上がり難く利用者の活用が洗濯物を畳みに使う程度で、他の利用に思うように活用できてない。
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具、電化製品、日用品等を居室に設置し家庭的な馴染みの環境を感じてもらよう家族に相談している。	稼動範囲を安全になる様に物を多く置かないようにしているが、何か身の周りで本人の愛着品や昔の写真等あれば取り入れている。
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室換気に努め、エアコンの調節はタイマー利用、冬場は乾燥防止のため居室に濡れタオル干し加湿励行。また24時間空気清浄機使用している。空気、温度、湿度、衛生的な環境づくりに配慮している。	共有スペース床暖房の作動。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	手すりの設置、浴槽内すのこ、シャワーテアー、浴槽への出入りし易い安全バーや各身体機能に合わせた便座の設置、利用者の自立支援を心掛けている。	GH内のビジョン『理念』である”安心、安全、安楽”を念頭に職員はケアを行っている。
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室に表札をかけて自分の名前を認識する事で他者の居室に入室しないように工夫し混乱をさせている。 トイレのドアに使用用途を書いて共有物の促しをしている	共有物(風呂・トイレ・テレビ)の使用については私物化しないように常に注意を図っていきいたい
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑、花壇、ベランダ、中庭、プランターの活用、野菜の収穫、水やり等の園芸活動を日常的に行い、季節感や思いやりの心を持って楽しんでもらえるよう努めている。	ハード面に於いて家庭的な中に安全を常時見守れる、ゆったりとゆとりの有る環境を創って(改築)欲しい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない